

沃度丁幾	皓鑿水	健胃錠
打撲にて創のなきとき又蟲に螫されたる時に用ふ	結膜『カタル』	
一日二、三回一、二滴宛點	眼	一回一個又二個
「アルコール」にて適宜に薄ふして用ふ		一日三回又六回迄

其他沃度「ホルム」、凍傷膏、昇汞、酒精「ガーゼ」、繃帶「ブランデー」、灌腸器、體温計等、

總じて支那内地は、獨り新疆のみに限らず、到る處決して名醫良藥を求め得るの望なし。故に不幸にして一朝病痾に罹るときは、勢ひ携帯の藥を服して甘ずるの外に途あらず。予は此の携帯藥の爲め、長途の旅行幸ひに健康を保持することを得たり。因て記して同氏に謝し、併せて旅行家の參考に供す。

斯く藥品の携帯は、必要中の必要なると同時に、土民へ施藥するの用意は、意外の便宜と幸福を購ふこと多し。名醫良藥の求め得べからざる結果は、彼の國民が外人に對し、誰も能く醫術を解し、又藥品を所有せるものと確信し、一匙一滴の藥を受くるも其恩惠に感ずる尠少ならざればなり。

大凡病症は、社會の進歩に伴ふものゝ如く、社會進歩すれば、病症も亦其種類を増

施藥携帯の必要